

会宝お客様通信

笑顔こぼれる みんなのミニ情報誌

7 月号

ほほえみ

Hohoemi

ぽすと

Post



第 2 回国際リサイクル会議

昨年5月8日、私が代表を務めるRUMアライアンス主催の第1回国際リサイクル会議が東京で開催されました。

そのときにカリブ・バルバドスよりパネラーとして参加いただいたバジル・スプリング博士が、第2回国際リサイクル会議開催のプランを練っています。開催地は博士の地元バルバドスの予定です。博士が発刊している最新のニュースレターにその準備内容について触れているので、概要をご紹介します。

「バルバドス国家戦略計画 2005-2025」では、国の計画的な環境・廃棄物管理は経済社会計画と同じくらい重要なことと位置づけている。

昨年、前国連環境局長であるノエル・ブラウン博士とお会いした際に、日本で自動車リサイクル業を経営する近藤氏をご紹介します。彼の哲学は自らが学んで得たことは世界すべての人たちと分かち合うというものであり、ブラウン博士はカリブへの技術移転に関心が高い。両名の出現により、私は第2回国際リサイクル会議を、カリブで開催する責務を負うことになった。

その第一弾は2006年10月にセントルシアで開催された持続可能な「観光」に関する第9回国際カリブメディア交流であった。私は近藤氏をこのイベントに招待した。彼の行ったスピーチは非常に好評で、メディアに

受け入れられた。

その後8ヶ月にわたり日本とバルバドスのコミュニケーションは継続し、2008年4月をめぐ

りにリサイクル会議の計画を進めることにした。

先週は関係諸氏から会議について積極的な意見をいただいた。環境省の関連部門や衛生公社はこの会議に大いに関わりたい意向だ。外務省、観光局、中央銀行などが支援を約束した。会議を自動車リサイクルに絞ったのだが、国連開発計画はこの会議がごみの分別、その他の資源リサイクルにも応用できると提案した。

この会議は行政、民間、国連など数多くのセクターがスポンサーとなり、環境NGOや自動車ディーラーを巻き込んだものとなるだろう。参加者は世界中から集まる。これらのサポートはすでに議論されている。

私たちはあきらめることなく、環境の復元に取り組んでいけば、必ず収穫を得ることができるはずだ。



車輛課からの お得な耳寄り情報

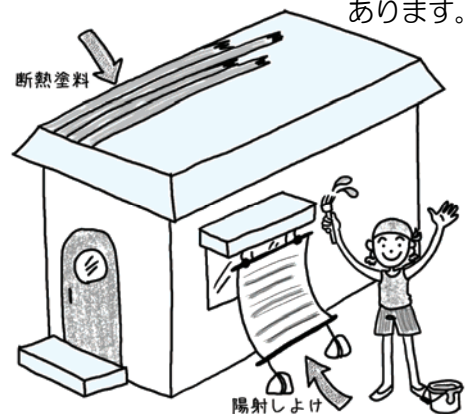


夏の暑さをブロック！

家の中を涼しくするには屋外の熱が入ってこない工夫が必要です。壁や屋根からも熱は入りますが、夏の昼間は7割以上の熱が窓などの開口部から入ってきます。一度太陽熱が入ってしまうと最近の断熱住宅では熱がこもり、家の中が暑くなります。

窓からの熱は、できるだけ建物の外部でさえぎるのが効果的です。ひさしやブラインドを外付けしたり、日光を反射する複層ガラスに取り替えるのも一つです。東西からの日射は南からよりも室内の奥まで入るので、日射の方向を考えることも重要です。

さらに屋根が受ける日射エネルギーは非常に大きいので、屋根からの熱をさえぎる工夫もしましょう。屋根に断熱塗料をぬって反射させたり、断熱効果の高い屋根材にしたり、屋根裏に換気システムを取り付ける方法もあります。



07年5月の車両処理実績			
フロンガス	破壊	Kg	434
	再利用	Kg	
エアバッグ	個		222
廃オイル	リットル		6,850
LLC	リットル		3,600
入庫台数	一般	台	1,132
	投棄	台	
処理台数	台		1,000
廃車ガラ量	トン		527

今月のクレーム

コンプレッサー



皆さんこんにちは、大森です。これからエアコンを使用する機会が増えてきますね。長い間エアコンを使わず、この季節に入り、いざ使おう！というときに効かない・・・!? なんてことがあります。自動車では冷風を出すためにコンプレッサーという部品を使います。液体をエアコンシステムにより循環させ、気化→液化→気化を繰り返し行っています。気体を液化させるには、気体の熱を奪ってやる必要がありますが、気体を圧縮して圧力を高めてやれば液化することができます。この圧縮する装置

がコンプレッサーです。

コンプレッサーは比較的壊れやすいといわれていて、商品が届き、いざ取り付けてみると動かないという場合もあつたりします。

この季節、中古コンプレッサーの問い合わせは多く、出荷前には必ずテストしています。しかしながら、先日、出荷時にテストしたにも関わらず、お客様にご迷惑をお掛けしてしまいました。

確かな商品を提供できるよう、より一層品質管理を徹底していきますので、よろしくお願いたします。

会宝産業株式会社 金沢市東蚊爪町1-25
 部品課TEL 076-237-5138
 FAX 076-237-6090
 E-mail kokunai@kaiho.co.jp
 車輛課TEL 076-237-5133
 FAX 076-237-1950
 E-mail info@kaiho.co.jp
 営業時間/8:30-18:30 日・祝日休業
<http://www.kaiho.co.jp>



いきいき趣味らいふ

夏に大活躍のTシャツ。今年は何と手間かけてオリジナルTシャツを作ってみませんか？ 買う必要があるのはナスの漬物などに使うミョウバンだけ。これは色を定着させるために使いますが、スーパーなどで数十円で手に入ります。あとは紅茶の葉やお茶出しパックなど台所にあるものでOK。さっそく作ってみましょう。

Tシャツの重さが100gとして鍋に3ℓの水を入れ、お茶出しパックに入れた紅茶葉50gを15分煮出します。紅茶葉を取り出し、次にTシャツを15分煮ます。新たに3ℓの水を用意して少量

簡単手染めで オリジナルTシャツを 作ろう！

簡単にできました！



サークル仲間で
おそろいもステキ



のお湯で溶かしたミョウバン6gを入れ、その中に軽く水洗いしたTシャツを2時間以上浸します。その後Tシャツを流水ですすぎ、軽く絞って日陰干しすれば完成。

紅茶だと淡いアースカラーに染まりますが、コーヒーや緑茶でも優しい色に仕上がります。カラシの粉やブドウの皮などもおすすめです。

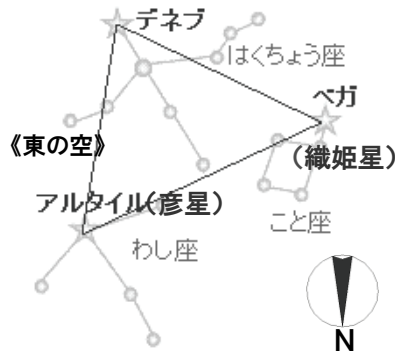
※Tシャツの素材が綿や麻の場合、先に2倍に薄めた牛乳(1ℓ)に1時間浸し、絞って天日干ししておくことで染まりやすくなります。動物性の絹や毛糸はそのまま大丈夫です。

季節の星ぼし

★みんな主役級 ～夏の大三角形～

ベガとアルタイルは七夕の主人公、織姫星と彦星です。残るデネブは3つの中で一番暗く見える少し地味な存在ですが、それは地球から見た場合のこと。実際には太陽の5千倍もの光を放つ、とても明るく輝く星なのです。

都会の夜空でも、よく見ると頭上近くに三角形に並んだ3つの星があります。これが「夏の大三角形」と呼ばれる夏の代表的な星座です。東の空を見上げたときに一番明るく輝いている星が「こと座のベガ」。ベガから右下が「わし座のアルタイル」、ベガの左下が「はくちょう座のデネブ」です。8月にはこのあたりに天の川も見えますでしょう。



楽しみながら涼しい夏を

節約玉手箱



「打ち水大作戦」をご存じですか？ 夏の暑い時期を「打ち水」で涼しくすごそうというイベントです。打ち水は江戸時代からの風習で、軒先や道路に生活用水(雨水やお風呂の残り湯)をまいて涼む先人の生活の知恵。昨年は全国で数百万人が一斉に打ち水をしたところ、実際に1〜2度気温が下がった涼しい風が吹いたそうです。今年も各地でイベントの計画が進んでいますので、興味のある人はインターネットで「打ち水大作戦」と検索してみてくださいね。

打ち水で家の外を涼しくしたら、家の中は氷柱で涼をとってみませんか。牛乳パックに水と造花などの飾りを入れて凍らせ、パックを破いて取り出します。飾った氷柱に扇風機の風を当てれば涼しい風が吹きまわし、見た目にも涼しげですね。

“目的別”日焼け止めの選び方

日焼け止めの「SPF」と「PA」。ご存知の方も多いでしょうが、これらは紫外線防止効果の大きさを表します。SPFはシミやソバカスの原因になる紫外線B波（UVB）を防ぎ、PAはシワやタルミの原因になる紫外線A派（UVA）を防ぎます。ただし、数値が大きくなるほどお肌に負担がかかります。肌荒れを起こさないためにも目的に合った日焼け止めを選びましょう。

ちょっとした外出などの日常生活なら SPF20、PA + くらい。屋外での軽いスポーツやレジャーなら SPF30、PA ++ 前後を。炎天下でのスポーツ、海や山などに行くときは SPF50、PA +++ が目安です。

中には「（紫外線）吸収剤無配合」「ノンケミカル」の商品もありお肌の弱い人にはおすすめですが、負担が軽い反面、お肌が白っぽくなったり触ると取れやすかったりするのが難点。お肌の状態に合わせていくつか用意しておくといいかもしれませんね。また、日焼け止めはしっかり落として保湿メインのスキンケアを心がけましょう。



こんなとき ぞーする!?

年中行事から

冠婚葬祭まで

～“お歳暮”は年の暮れ。では“お中元”の語源はなぁに?～

「お中元」という言葉は、昔の中国から来た言葉だそうです。

11世紀頃のこと。ある男に王の娘である三姉妹が恋をして、それぞれ男の子を生みました。3人の男の子は神通力などの不思議な力を持っていたので、神様が位をつけて下界につかわしました。1月15日生まれの長女の子は「上元一品」の位。人々に福を与えました。7月15日生まれの次女の子は「中元二品」の位。人々の罪を許しました。10月15日生まれの三女の子は「下元三品」の位。人々の災厄を取り除きました。3人の誕生日には神様にお供え物をして、盛大なお祭りが行われたそうです。

この行事(お祭り)は次第にすたれてしまいましたが、たまたま次男の「中

元」の誕生日が日本のお盆の行事と結びつき、仏様へのお供物を親類や隣り近所に贈る習慣として「お中元」が残ったそうです。江戸時代になると仏様へのお供えとともに、商い先やお世話になった人にも贈り物をする一般の贈答行事となりました。

このようにお中元はもともと7月15日でしたが、今では7月初めから15日までにすませるのが一般的です。しかし、関西から西ではお中元を月遅れの8月にすることが多いようです。年中行事を月遅れで行なう地方では8月15日までにお中元を贈ります。引っ越しで初めての土地に暮らすときは、ご近所の方にその地方の風習を聞いてみるといいですね。

